

2021年度 第3回マージン検討会 議事録

1. 日 時：2022年2月10日 11:00～11:40

2. 場 所：Webex

3. 出席者

鈴木 邦生 北海道電力ネットワーク（株）工務部広域システムグループ担当課長
宮崎 裕一 東北電力ネットワーク（株）電力システム部給電グループ課長
菊田 政雄 東京電力パワーグリッド（株）系統運用部系統運用計画グループマネージャー
戸松 洋隆 中部電力パワーグリッド（株）系統運用部給電計画グループ課長
山田 義徳 北陸電力送配電（株）電力流通部系統運用・保護チーム統括課長
黒井 浩二 関西電力送配電（株）系統運用部給電計画グループチーフマネージャー
保田 創 中国電力ネットワーク（株）系統運用部系統技術グループマネージャー
鍋島 晃 四国電力送配電（株）系統運用部給電グループリーダー
小杉 成史 九州電力送配電（株）系統技術本部電力品質グループ長

事務局（電力広域的運営推進機関）

首藤 隆徳 運用部マネージャー
多田 光伸 運用部マネージャー
秋葉 千曲 運用部
寺島 正浩 運用部
中澤 佳経 運用部

4. 議 事

- (1) 2022年度以降の北海道風力実証試験のためのマージンの設定について
- (2) マージンの設定の考え方及び確保理由について
- (3) 2022・2023年度の年間マージン（案）について
- (4) 2024～2031年度の長期マージン（案）について
- (5) 連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダーについて
- (6) 最大電源脱落マージンに織り込む調整力について

5. 配布資料

資料1：2022年度以降の北海道風力実証のためのマージンの設定について
資料2：マージンの設定の考え方及び確保理由
資料3：2022・2023年度の年間マージン（案）
資料4：2024～2031年度の長期マージン（案）
資料5：2022年度・2023年度連系線の運用に関わる平日・休日カレンダー
資料6：最大電源脱落マージンに織り込む調整力について

6. 議事録 [◎一送、○広域]

- (1) 2022 年度以降の北海道風力実証試験のためのマージンの設定について
事務局より資料 1 に基づき説明した。

○本資料のとおり 2022～2023 年度は、引き続き北海道本州間連系設備と東北東京間連系線に風力実証試験のためのマージンを設定する。2024 年度以降の設定を未定としている理由は、実証試験後の風力設備の運転継続のため、需給調整市場を活用した運用等仕組みの変更を検討していくこととしているが、仕組みの変更には検討すべき技術的課題がある状況であり、2024 年度を目標に仕組みの変更の検討を進めることとしているためである。

- (2) マージンの設定の考え方及び確保理由について
事務局より資料 2 に基づき説明した。

特段の質問・意見なし。

- (3) 2022・2023 年度の年間マージン（案）について
事務局より資料 3 に基づき説明した。

特段の質問・意見なし。

- (4) 2024～2031 年度の長期マージン（案）について
事務局より資料 4 に基づき説明した。

特段の質問・意見なし。

- (5) 2022 年度・2023 年度連系線の運用に関わる平日・休日カレンダー
事務局より資料 5 に基づき説明した。

特段の質問・意見なし。

- (6) 最大電源脱落マージンに織り込む調整力について
事務局より資料 6 に基づき説明した。

◎シート 3、4 の「一般送配電事業者が確実に使用できる調整力」の説明について、本文の意味は、市場で約定した調整力は一送が確実に使えるということと理解したが、他方で、三次調整力①は市場調達を行うものであり必要量を確実に調達できるとは限らないため、読み手に誤解を与えないようもう少し丁寧な説明を加えてはどうか。

○ご指摘どおり説明が足りなかったと思う。丁寧な記載に見直すこととしたい。

◎今回の見直しにより、シート 4、5 にある式の TS0 が確保する調整力の中に三次調整力①等の市場調達した調整力も反映するという事は理解した。記載ぶりに関する提案であるが、式中にある注釈に「広域調達した調整力を考慮する」など明記した方がわかりやすく良いと考える。

○「TS0 が確保する調整力」の中身がわかる注釈に見直すこととしたい。

○最大電源脱落マージンの算出時に織り込む調整力に、市場調達した調整力を考慮することについては異論ないと認識した。

以 上